



資本力と世界経済

令和7年10月7日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

世界の GDP 格差は、為替水準とともにその豊かさの正しい指標である。これらが今日の世界経済の基盤として資本力の差における現実を有するものである。

これらは各国における購買力の差が、資本力の差であり、今日の世界のインフレとともに、資本力における豊かさの指標を与えるものである。

これらは金融経済における世界の現実であり、資本主義における現実、実体経済はこれに追従するものであるという認識を与える。

これらは豊かさという指標が、各国における購買力において比較できるものであり、それらは拡大して世界における資本力の差における経済への正しい判断を与えるものである。

これらは資本が資本を生むという金融経済の現実において、その富の創出を求めるとき、国境を求めることは存在しない。これらが経済のグローバル化の真実である。

また富の移動は、過去における世界の盛衰であり、これらはロマノフ王朝の資本が、移動し、世界におけるトッププレゼンスを形成したことは留意できるものである。

これら視点における世界への考察は明らかに正しい。富が世界におけるプレゼンスを形成するためである。

これらは豊かさの格差という世界の現実において、現実への理解を求めることは可能である。

それら基盤における新たな未来の探求は、明らかに世界の現実であり、それを否定することはできない。

これらはグローバル基準と現実であり、現実を求める限りそれを否定することはできないのである。これらに対する視点は、勝者の論理における世界の秩序形成という現実への理解を求めるものである。